“青年期移行問題およびメンタルヘルスの社会学”

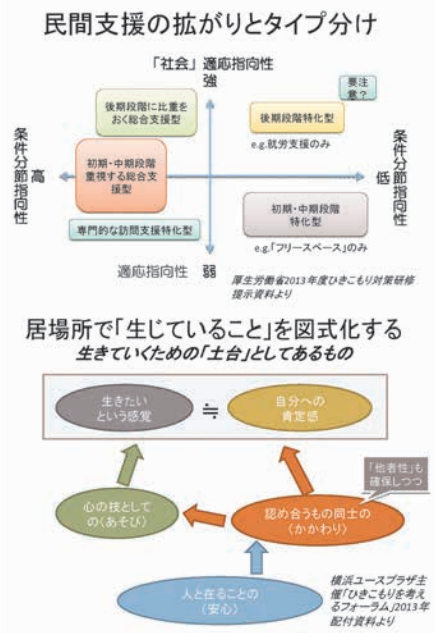
教授　荻野　達史（社会学）

1968年５月生まれ、1999年東京都立大学大学院博士課程単位取得退学、1999年静岡大学助教授、2005年ノースカロライナ大学客員研究員、2012年静岡大学教授.

研究概要

当初は社会運動研究から出発し、いじめや学校教育を問題にする市民活動･運動を主な対象としていました。その後、この10数年、「ひきこもり」経験者の社会復帰支援を行う民間団体を主なフィールドとして、参与観察やインタビューにもとづく研究を行ってきました。支援の方法や現場で生じていることの記述を通して、かれらの困難の社会的背景や、精神医療との関わりにも注目した支援活動の有する現代的な意味、そして望まれる支援のあり方について検討してきました。最近は、職場のメンタルヘルス――産業精神保健の歴史や職場復帰支援のあり方――についての研究も進めています。

総じて関心があるのは、現代社会の変容を背景として児童期から成人期にかけていかなるメンタルヘルス上の問題が生じるのか、そしてなんらかの失調・不調を抱えた方々が「生き直せる」ための社会的支援をそれぞれの社会がどのように発想し、施策形成から個々の臨床に至る総体的な取り組みを展開できるのか、そうした問題になります。



メッセージ

現在は産業精神保健のフィールドを社会間比較も視野に入れて広げることを模索中です。また、「ひきこもり」研究により、この現象が多様で支援も多岐に渡るため、児童・青年期における狭義のメンタルヘルス問題だけでなく、就学・就労に関わる様々な事柄について関心と一定の知識を持つことができました。現在も小中学校の先生や生徒、保護者を対象にした地域調査に共同研究者として参加していますが、現場の方々のリアリティや問題意識をお聞きしながら、自分の調査方法等に関する知識や経験を活かせることは、私にとって重要な経験になっています。研究者が既に正解を持っているわけでは全くありませんので、現場と協議しながら必要な調査研究を行い、必要な対応を考えていく。そうした営みを通じて、自己責任論だけでは終わらない、そして格差の少ない社会作りになにがしかの貢献ができればと思います。

【主な研究業績】

外部資金獲得状況：科学研究費補助金基盤研究（C）「産業メンタルヘルスの社会学的研究」（2008-2011）代表者、科学研究費補助金基盤研究（B）「多領域フィールドワークにもとづくメンタルヘルスの知と実践の浸透に関する理論構築」（2012-2014）代表者、厚生労働科学研究費補助金「諸外国の産業精神保健法制度の背景･特徴･効果とわが国への適応可能性に関する調査研究」（2012年度研究協力者、2013年度研究分担者）

委員等：NPO法人サンフォレスト副代表（2008-）
学会等：日本社会学会誌「社会学評論」専門委員（2012-2015）、関東社会学会「年報社会学論集」専門審査委員（2014）

著書・論文：
1）「新たな社会問題群と社会運動：不登校，ひきこもり，ニートをめぐる民間活動」（単著）『社会学評論』第57巻２号，311-329，2006.
2）『「ひきこもり」への社会学的アプローチ：メディア・当事者・支援活動―』（共編著）ミネルヴァ書房，2008.
3）『ひきこもり もう一度，人を好きなる：仙台「わたげ」，あそびとかかわりのエスノグラフィー』（単著）明石書店，2013.